

第14回

— 精神科認定看護師 新制度認定試験問題 —

試験科目：基礎・専門基礎科目

試験日：平成22年2月20日（土）

試験時間：10：30～12：00

- ・問題は合図があるまで、開かないでください。
- ・問題はお持ち帰り下さい。

I. 次の各項について、正しいものに○印、誤りであるものに×印を「解答用紙－1」に記入しなさい。

1. 援助関係という概念は、援助者と被援助者が対等な立場にあるという視点に基づいており、この考え方からすると、看護師と患者との間に生じているあらゆる対人関係は援助関係とみなすことができる。

2. 患者の健康にとって最も望ましいセルフケアの原則は、医師や看護師の指示を忠実に守ることを意味するコンプライアンスである。

3. 自己開示とは、自分自身の感情、ニード、考え、価値、行動の仕方や傾向などを自己理解することである。

4. 1993（平成 5）年に「障害者基本法」が成立し、身体障がい者や知的障がい者と同等に、精神障がい者もこの法律の対象となった。

5. 2004（平成 16）年に改正された障害者基本法には、障がいを理由とした差別禁止が規定され、罰則も加えられた。

6. 4M4E とは、「4 人の事故には、4 つの原因がある」ことから名付けられた古典的管理手法である。

7. A 教員は、学生が課題をきちんとしてきたとき、ほめることにしている。その後、学生は A 教員から出された課題をよくしてくるようになった。このような行動変容のアプローチをレスポナント条件づけという。

8. IPW（Inter-professional Work）の障壁となる要因の代表的なものは、①職種による達成目標の違い、②職種固有の文化、③分離された教育、④対等な職位などがある。

9. KJ 法とは、文化人類学者の川喜田二郎によって考案されたデータを分析・統合するための研究方法である。

10. OJT（On the Job Training）では、個人にあったきめ細やかな指導が可能であり、実践的、具体的な知識・技能を習得できるが、一方で指導される内容が日常業務に偏りがちで、徒弟制度に陥る危険性もある。

11. SST は「入院生活技能訓練」なので、訪問看護や地域の社会復帰施設で行っても効

果は期待されない。

12. インフォームドコンセントによって情報提供されなければならないことには、診断、治療方法、他に考えられる治療法、治療によるリスクなどがある。

13. エリクソンが提唱した青年期の発達課題は親密性の獲得と孤立感の回避である。

14. オペラント条件付けは、人間が生来持っていない行動、すなわち、反射とは関係しない自発的行動の学習を対象とする。

15. カルペニートの「2重焦点臨床実践モデル」では、看護者がモニターする合併症や副作用は看護診断を用いるのではなく「共同問題」として扱うことが提案されている。

16. 業務独占資格とは、有資格者以外は当該業務に従事することを禁じており保健師がこれにあたり、名称独占とは、国が設けるにふさわしい特別な社会的な意義を有する者に限定しており助産師、看護師がこれにあたる。

17. グループと集団とは目的を持って人が集まるような時に使われる言葉の総称である。

18. DSM-IVは、多軸診断システムを採用しており、第1軸にはパーソナリティ障害、精神遅滞について記載することになっている。

19. コンサルテーションにおけるコンサルタントは、コンサルティが問題を解決する能力がない場合には、自分が主役となって問題の対処に当たる役割を担う。

20. コンプライアンスという言葉には、指導する医療者、従う患者というニュアンスがある。

21. 生活保護制度は申請保護の原則があり、いかなる場合も保護を必要とする者、扶養義務者、親族が保護の申請を行わなければならない。

22. サービスが提供されている仕組みを評価するためには、スタッフは現場の人間関係を十分に把握してから、サービス内容が適切であるかどうかを評価しなければならない。

23. さまざまな家族療法のアプローチはシステム理論の影響を大きく受けている。したがって、システム理論のアイソモρφィズムという考え方からも、家族療法の考え方、技法は病棟での看護実践や訪問看護での家庭訪問などに応用する可能性が大きい。

24. ジェネラリスト看護師が実践する看護の質は、病院で提供される看護の評価基準とな

り、認定看護師のことを指す。

25. システムとは個々の要素が関係性を持って統合された全体を構成しているものと定義されるので、患者さん、病棟、治療チーム、家族などもシステムである。

26. システムの階層性とは国家、病院など、患者や看護師よりも大きなシステムが階層的に高い位置にあり、それだけに影響力が大きいという意味である。

27. システム理論を臨床実践に活用しようとするシステムズアプローチでは、患者の症状や問題を、患者にとって重要な家族や学校などの上位システムと患者の心理や脳や身体などの下位システムとの相互関係性の中で理解し、治療的援助に役立てようとする。患者が入院している場合には病棟が患者にとって重要な上位システムであるから、病棟の看護体制、看護師と患者の関係、看護師と医師と患者の関係などのシステムの理解は重要である。

28. ショック療法は患者が高熱や昏睡状態から回復した後に、精神症状が恒久的に軽減するという経験的な知識から生まれたものである。

29. 診療報酬の単価は、全国一律であり、保険者、被保険者の種別にかかわらず同様に適用される公平なシステムである。

30. ストレスとは、個人の行動に負担がかかり、個人の経験の変容をもたらすものと定義できる。

31. 精神科で起こる医療事故は、一般科と同様に医療者側の過失による事故が最も多い。

32. せん妄においては、一般的にせん妄症状や意識状態は経過のなかで動揺する。

33. チームとしての活動の要件は、チームメンバーに共通の目標があること、メンバーが同じ役割を有していることである。

34. チーム医療とは、一人の患者あるいは障がい者を包括的に支援することを目的に、専門の異なる多くの職種が連携して医療にあたることである。医師は、チームリーダーとしてチームをまとめる役割を担い、看護師はチーム内調整を行う。原則として患者あるいは障がい者はチームメンバーには含めない。

35. データの形態は、数値データ、言語データの2つに大別され、数値データには、計量値、計数値、順位値がある。

36. パニック発作はたいてい1時間以内に消退する。

37. ヒストグラムは、度数分布表をもとに作成した棒グラフである。
38. ピラミッド型組織にみられる「管理者 - 監督者 - 一般職」という組織の流れは「ライン構造」とよばれる。この場合、部門を越えて指示するときは、該当する部門の監督者と調整をして、該当部門の監督者から指示するか、該当部門の監督者と相談した後に実行することが適当である。
39. フロイトは生後 18～36 カ月ごろまでを肛門期と呼んだ。トイレット・トレーニングが重要な発達課題となる時期である
40. ペプローの人間関係論では入院初期において患者は看護師の言動をよく窺うとされている。
41. ベンゾジアゼピン系化合物は GABA 神経系の働きを抑制することにより抗不安作用、催眠作用を得ている。特に、抗不安作用の強いものが抗不安薬として、催眠作用が強いものが睡眠薬として用いられている。
42. ヘンダーソンのニード論で「遊びやレク活動へ参加するニード」はマズローの欲求階層カテゴリーでは自己実現のニードに該当する。
43. ポール・ハーシィらはマネジメントに必要な能力は、専門的能力、対人的能力、経営能力が必要と述べている。
44. リーダーシップとマネジメントは本質的には異なり、リーダーシップは組織の目標達成が主眼であるが、マネジメントは他者、集団、行動への影響力をいう。
45. 医療のリスクマネジメントは、医療収益を増益するための経営手法である。
46. 医療事故の中で、医療をめぐる医療者側と患者側の間で起きたすべてのトラブルは医療紛争といわれ、医療従事者が行う業務上およびそれに起因する事故のうち、過失の存在を前提としたものを医療事故という。
47. 介護保険におけるホームヘルプとは、床ずれの手当てなどを行う訪問看護のことである。
48. 介護保険における施設サービスは、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設に区分され、精神療養病棟は介護療養型医療施設に含まれる。

49. 開放病棟とは、1 日に 8 時間以上、病棟の出入り口が施錠されていない状態にある病棟をいう。
50. 患者が自らの意思や体験を看護師によって重視され、尊重されていると感じられるような働きかけをエンパワメントという。
51. 患者－看護師の関係性には発達のプロセスがあることを最初に論じたのはベナーである。
52. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律は、平成 10 年に制定された。さらに、平成 11 年 4 月 1 日には、結核予防法の統合、また人権意識の高まりから「人権尊重」や「最小限度の措置の原則」が明記されるなどの改正がなされた。
53. 看護者の「よかれ」と思って行なうケアは、患者のことを考えてのことであるから、原則として正しいものとして認識される必要がある。
54. 看護必要度は、看護者の看護業務量（忙しさの度合い）を図る指標として活用されている。
55. 急性ストレス反応とは、心理社会的要因によって引き起こされる感情・行動の異常である。
56. 狭義の社会保障には、社会保険、社会福祉、公的扶助のほか、医療・公衆衛生も含まれる。
57. 血液中にある外部から投与された薬物などは直接無制限に神経細胞に移行する。
58. 教育は成果の方が大切だから、プロセスについてあまり考慮する必要はない。
59. 現在の看護教育制度は、学校教育法ではなく、保健師助産師看護師法によって規定されている。
60. 個人志向のアプローチとは、グループの中で参加者一人ひとりがコミュニケーションしながら進めていくアプローチである。
61. 抗うつ薬関連における重篤副作用疾患には「セロトニン症候群」「悪性症候群」「抗利尿ホルモン不適合分泌症候群」「皮膚粘膜眼症候群」などが挙げられる。

62. 抗精神病薬や抗うつ薬による体重増加は、服薬している人の 25～50%に出現するといわれている。精神科における体重増加と肥満は、与薬されている各向精神薬の受容体親和性の差によって体重増加の頻度が異なり、精神症状の影響は軽微である。したがって服用している薬物の作用・副作用として現れる結果としての反応を重視して考えることが重要である。
63. 行政処分を受けた看護師は、看護職員確保の観点から、再教育は免除されている。
64. 国民皆保険制度による医療保険制度は、国際的に導入されている標準的医療保険制度である。
65. 災害時の医療では 3 つの T が重要とされる。それは、トリアージ (triage)、治療 (treatment)、時間 (time) の 3 つである。
66. 事前ミーティングや事後ミーティングはグループワークとは直接関係のないことであるので、朝の申し送りなどでまとめて行うことが望ましい。
67. 事例検討会に提出する資料では、複数の病棟スタッフが出席する院内の検討会であれば事例の匿名化を行う必要はない。
68. 事例研究は EBM (Evidence Based Medicine) の考え方ではエビデンスとして認められない。
69. 精神保健福祉法で定める行動制限には、通信・面会の制限、任意入院患者の開放処遇の制限、隔離、身体拘束がある。
70. 質的研究は量的研究よりも看護学に適した研究方法である。
71. 社会福祉基礎構造改革により、障がい者福祉制度は措置制度から契約によるサービス利用制度へ大きく転換することとなった。
72. 主観的現実は一とそれぞれに多様である。同じ体験をしてもその意味づけや解釈は異なる。複数の現実ともいう。これを「予言の自己成就」という。
73. 集団のローカル志向を持つ人たちのアイデンティティは、組織の一員としてコミットメントし、組織に忠誠心を持ち、準拠集団は組織外に求める。

74. 少子高齢化の進行は、世代内連帯により成立している社会保障制度の根幹に影響するもので、抜本的な制度改革が求められることとなった。
75. 笑顔でのサービスが商品となっている客室乗務員の仕事、そして対人援助職者にもおなじようなケア提供の際に作用する仕事など、これをまとめて感情労働という。
76. 心理教育は患者や家族を対象に行われる取り組みであり、情報提供やグループワークなどを通して、病気や障害を抱えながらも生活をしていくための対処能力を高めていくアプローチである。
77. 新規の抗うつ薬にはSSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）とSNRI（セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬）があるが、三環系や四環系など従来の抗うつ薬もセロトニンとノルアドレナリンに対する効果が主たる作用である。
78. 新人教育の方法には、プリセプターシップ、インターンシップ、メンターシップ、チュートリアルシップ、補助システムなどがある。
79. 診療報酬制度は、保険者、被保険者、医療提供者の3者で成り立っている。
80. 人員配置基準より人を多く増やすほど看護サービスは良くなる。したがって看護管理者に求められる能力は、多くの人を採用することである。
81. 精神科認定看護師には、専攻領域の技術提供はもちろんのこと、ほかの看護師の相談にのったり、ほかの医療職者と協働して働くことが求められている。
82. 精神科訪問看護・指導料とは、精神科を標榜している保険医療機関から看護師等が患者の家を訪問し、個別に看護及び療養指導を行った場合に算定できる。
83. 脳血管性認知症における人格の変化は、アルツハイマー型認知症に比べ、比較的良好に保たれることが多いといわれている。
84. 組織の構成要素は人間そのものでなく人間が提供する活動や力であり、意識的に調整されている。
85. 大人の教育には、大人の特性をとりいれた教育（ペダゴジー）を行うべきとノールズ（M. S. Knowles）は提唱した。患者の場合は、大人であっても、医療に関してはよく知らないことが多いので、ペダゴジーは患者教育には適さない。

86. マーラーは生後 4・5 ヶ月から 36 ヶ月の間を分離・個体化の時期として重要視した。
87. 地域包括支援センターは、要支援者の把握、虐待への対応、相談業務を高齢者虐待防止対策として行っている。
88. 注意集中機能とは、同時に存在するいくつかの認知の対象の内、1 つに意識の焦点を合わせ、それを明瞭に把握する働きである。
89. 調剤は薬剤師固有の業務であり、薬剤師法第 4 章第 19 条で「薬剤師でない者は、販売又は授与の目的で調剤してはならない」と定められている。すなわち、医師の処方同様、薬剤師の調剤権は薬剤師法においてその独立性が担保されている。
90. 通信の自由は、民法でも保障されており、通信・面会は、基本的に自由であり制限してはならない。
91. 統合失調症における社会的予後は、約 1/2 がほぼ平常の社会的機能を維持する。
92. 統合失調症の概念の出発点は、19 世紀末にクレペリン (E. Kraepelin) により規定された早発性認知症である。
93. 日本では、総人口に占める 65 歳以上の人口の割合（高齢化率）が 21% を超えており、すでに超高齢社会に突入している。
94. 日本における精神疾患患者の保護に関する法律として初めて公布されたのが、1900（明治 33）年の私宅監置法である。
95. 認知症は、脳の循環障害・感染症・外傷・老人性変化などによる脳の広範な器質性病変によって、一度発達した知能が低下する精神障害である。
96. 病棟で行われるグループワークは、入院期間中は必ず参加してもらうために、時間や回数などは制限せず、患者の希望や病棟行事を第一に決定する。
97. 面接では、バーバル（言語的）なレベルの理解が重要であり、ノンバーバル（非言語的）なコミュニケーションは、副次的な役割をするだけである。
98. 輸血しなければ死亡することが予想される場合にも、本人が宗教上の信念等から拒否する場合には、輸血するべきではないとの判例がある。

99. 1984（昭和 59）年のライシャワー事件により、日本の精神医療行政は世界的非難を浴びた。

100. プレゼンテーションの基本は、聞き手がなぜ自分の話を聞こうとしているのか、その理由を認識し、相手のニーズを明確にすることである。

Ⅱ. 下記の文章の【 】の数字に最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号を「解答用紙－2」に記入しなさい。

1. 医療機関では、【 1 】の動向の統計が作成されている。一般的に使用されている用語や計算式は、厚生労働省の【 2 】で用いられているものと同じである。代表的な指標として、【 3 】、平均在院日数、【 4 】がある。【 4 】は、病床がどの程度利用されているかを、【 5 】の患者数の割合で算出したものである。

【 選択肢 】

ア：患者報告                      イ：入院患者                      ウ：病院報告                      エ：退院率  
 オ：精神看護白書                  カ：病床利用率                      キ：入院・退院                      ク：病床回転率  
 ケ：病床数                          コ：転入・転出

2. 診療報酬制度は、【 6 】、【 7 】、【 8 】の3者で成り立っており、保険医療機関が【 7 】に対して行った【 9 】の対価を【 6 】から受け取る仕組みになっている。

【 選択肢 】

ア：保険会社                      イ：医療提供者                      ウ：医療サービス                      エ：介護保険  
 オ：被保険者                      カ：自由診療                          キ：混合診療                          ク：保険者

3. 日本国憲法は「生命、自由及び幸福追求」に関する国民の権利を保障している。この権利の中心にあるのが【 10 】であるといわれている。インフォームドコンセントは、医療の領域でこの権利を保障するために実施される。

【 選択肢 】

ア：プライバシーの保護                  イ：自己効力感                      ウ：自己決定権  
 エ：無害原則

4. アサーションとは、【 11 】と訳される。アサーティブはその形容詞で言語のまま用いられたり、「相手も自分も大切にした【 12 】」と訳される。アサーティブコミュニケーションを開発した【 13 】は、コミュニケーションを【 14 】コミュニケーション、非主張的コミュニケーション、アサーティブコミュニケーションの3つに区分した。

【 選択肢 】

ア：ゴールマン                   イ：攻撃的                   ウ：主張                   エ：わがまま  
オ：自己表現                   カ：ウォルピー           キ：受容                   ク：非攻撃的           ケ：バーン

5. ストレスの対処行動の連鎖は、【 15 】があつて【 16 】が生じ、選定すべき対抗手段としての【 17 】を明確にし、対処方法として【 18 】が実行されるというものである。

【 選択肢 】

ア：行動パターン               イ：リソース               ウ：ゴール               エ：ストレッサー  
オ：コーピング               カ：ストレス反応           キ：コントロール

6. 薬剤情報の基本は、【 19 】の添付文書である。添付文書には、承認された効能・効果と【 20 】、根拠となる【 21 】の要約、適正使用にあたって必要な【 22 】、製剤や取り扱いについての情報など、臨床上必要な【 23 】の情報が記載されている。これらの中で、安全性との関連で重要なのは、【 24 】、禁忌、慎重投与などの項目である。

【 選択肢 】

ア：各製薬会社               イ：最大限               ウ：警告               エ：医薬品医療機器総合機構  
オ：用法・用量               カ：臨床試験成績           キ：一般的               ク：使用上の注意  
ケ：最低限               コ：成分               サ：作用

7. 【 25 】に関しては、主に【 26 】と【 27 】の2つの用語が用いられている。以前、よく用いられていた【 26 】には、医療提供者の決定に従って、患者が服薬を遵守するというイメージがある。これに対し、最近、主として用いられている【 27 】という用語には、患者自身が積極的に治療方針の決定に参加し、【 28 】の決定に従って、能動的に治療を実行（服薬）し、それを続けていく姿勢を重視する意味が込められている。

【 選択肢 】

ア：服薬遵守                   イ：法令遵守               ウ：コンプライアンス       エ：アドヒアランス  
オ：コンコーダンス           カ：服薬管理               キ：エンパワメント       ク：家族  
ケ：治療方針               コ：看護方針               サ：自ら

8. 2004年に日本精神科看護技術協会により提示された精神科看護の定義には、「精神科看護とは【 29 】について援助を必要としている人々に対し、個人の尊厳と【 30 】を基本理念として、専門的知識と技術を用い、【 31 】の回復を通して、【 32 】生活ができるよう支援することである。」とある。

## 【 選択肢 】

ア：精神保健福祉法の厳守      イ：個人の尊厳      ウ：権利擁護      エ：社会  
オ：精神的健康      カ：精神的不健康      キ：健康      ク：自律性  
ケ：その人らしい      コ：自立性

9. 組織の目的を達成するためには組織強化が必要である。強い組織文化は、組織の中心的価値が保持されて、広く共有されるために、職員間に強い団結が見られ、【 33 】の傾向が減少する。また、ルールや規制の提供が不要で【 34 】が低くなる。しかし、弊害として【 35 】やグループシフトが生じる。また、環境が変化しているのに、固定された文化は適切でなくなり、【 36 】を用いた組織分析を行って変革を推進する。

## 【 選択肢 】

ア. コスモポリタン      イ. フィードラー      ウ. エンパワメント      エ. 退職  
オ. 管理コスト      カ. 集団浅慮      キ. SWOT

10. 生まれてから2歳くらいまでの間、【 37 】や象徴機能を獲得する以前の子どもたちは動作レベルで考える。実際には無関係なものの中に、ある関係があると思い、その一方に働きかけることによって、他方にある効果をもたらすことができる【 38 】的思考である。【 37 】や象徴的機能を獲得すると、思考は内的活動のレベルを中心としたものになるが、幼児の思考はまだ【 39 】であり、合成的で転導の傾向が見られる。成長するにつれて、経験を通じて子どもは次第に因果関係を正しく捉えることができるようになり、物の【 40 】や保続の概念が分かるようになる。学童期の、具体的な事柄を扱いながら、ある程度論理的に考えられる具体的思考の段階を経て、目の前の物を離れて、形式的・抽象的な概念によって考える【 41 】的思考へと進んでいく。

## 【 選択肢 】

ア. 意味      イ. 永続性      ウ. 前論理      エ. 呪術      オ. 言葉  
カ. 観念的      キ. 自己中心的      ク. 抽象      ケ. 象徴      コ. 機能

11. Off-JT (off-the-job training) は、職員の教育訓練のひとつで、【 42 】と訳される。職員を職場から離して行う【 43 】をいう。幅広い視野での体系的知識や原理が統一的・【 44 】に、しかも短時間で提供できるという長所がある反面、実践的・【 45 】テーマへのアプローチが難しく、また業務活動の中断を伴うという欠点がある。看護現場での Off-JT の形態として、教育委員会などが企画し集団に実施する【 46 】や、施設外で開催される講習会や研修会に派遣する【 47 】が一般的である。

## 【 選択肢 】

ア：職場内訓練                      イ：個別指導                      ウ：効率的                      エ：具体的  
 オ：施設外派遣教育                  カ：職場外訓練                  キ：教育訓練                  ク：組織的  
 ケ：集合教育                          コ：プリセプター・システム

12. 【 48 】的評価は、教育活動の進行中に行うものである。

## 【 選択肢 】

ア：診断                      イ：形成                      ウ：総括                      エ：包括                      オ：探究

13. SST ではロールプレイを用いた【 49 】が多く用いられている。それは、【 50 】を高めるために主におこなれる取り組みであり、その技能には、言語的技法と【 51 】がある。

## 【 選択肢 】

ア：注意焦点付け訓練                      イ：基本訓練モデル                      ウ：処理技能  
 エ：受診技能                                  オ：送信技能                                  カ：コミュニケーション技能  
 キ：非言語的技法

14. マネジメントの典型的な手法が PDCA サイクルで、【 52 】、【 53 】、【 54 】、【 55 】のプロセスの順に実施する。また、PDCA サイクルは、看護が実施している【 56 】による【 57 】と同じ流れを持っている。

## 【 選択肢 】

ア：PDSA                      イ：問題解決志向記録方法                      ウ：POS                      エ：評価  
 オ：アセスメント                  カ：実行                                  キ：維持管理                      ク：改革志向  
 ケ：観察                          コ：改善行動                                  サ：計画

15. 【 58 】は社会的文化的に構成された男らしさ・女らしさのこと。【 58 】の作用をとおして、言葉づかい、身体動作や行動、ものの見方や感受性などが構成され、私たちの普段の【 59 】が、男らしいとか、女らしいとかという具合に機能し、そうした特性があかたも自然な特性であるかのように機能する。この【 58 】は、【 60 】の過程をとおして内面化される。

## 【 選択肢 】

ア：ジェンダー    イ：親役割    ウ：家族    エ：コミュニティ  
オ：個人化    カ：コミュニケーション    キ：社会化    ク：国際化

16. クライアントのもつ【 61 】を見出し、それを強化し、自立にむけて努力することを支援するアプローチが重要となっている。これを【 62 】ともいう。個人のもつ内なる力や個性、そして【 63 】に配慮した対人援助を【 64 】の見地による実践という。ケアの場面においてはともすると【 65 】に焦点があたってしまうので、こうした見地は大切である。

## 【 選択肢 】

ア：ストレングス    イ：エンパワメント    ウ：アドボカシー  
エ：人権    オ：トラウマ    カ：リスクマネジメント  
キ：家族    ク：治療構造    ケ：問題行動    コ：人格

17. 2005年に成立した障害者自立支援法で論議をよんだのは、「【 66 】から【 67 】へ」といわれる費用負担の問題である。サービス利用者は、「サービス利用量と【 68 】に応じた負担」が求められ、通院医療費公費負担の本人負担も【 69 】へ移行することで、【 70 】%から【 71 】%となる。

## 【 選択肢 】

ア：応益負担    イ：受益負担    ウ：応能負担    エ：適切負担  
オ：所得    カ：サービス利用度    キ：障害    ク：地域生活支援事業  
ケ：自立支援医療    コ：5    サ：10    シ：20

18. 人格障害は、ICD-10において社会文化的標準から著しく偏っている【 72 】経験と【 73 】のパターンであり、広範で柔軟性を欠き、【 74 】や早期成人期から明らかとなり、長期間の経過にも変化せず、【 75 】や障害をもたらすものと定義されている。

【 選択肢 】

ア：主観的      イ：客観的      ウ：行動      エ：思考      オ：乳幼児期      カ：思春期  
 キ：中年期      ク：苦痛      ケ：快樂

19. 精神保健医療福祉の改革ビジョンでは、精神障がい者の【 76 】体制の再編について、①ライフステージに応じた【 77 】の総合的な支援体系の再編、②市町村、障害保健福祉圏域、都道府県による重層的な【 78 】(ケアマネジメント)体制の確立、③市町村を中心とした【 79 】なサービス供給体制の整備という方向を示した。

【 選択肢 】

ア：地域移行支援      イ：地域生活支援      ウ：住・生活・活動  
 エ：住・生活・就労      オ：地域支援      カ：相談支援  
 キ：効率的      ク：計画的

20. 看護記録への氏名の記載はすべて【 80 】で記載し、責任の【 81 】を明確にする。医療訴訟が提起された時、【 82 】を【 83 】する【 84 】書類として採用される。

【 選択肢 】

ア：匿名      イ：実名      ウ：分担      エ：責任者      オ：事実経過  
 カ：否認      キ：証拠      ク：所在      ケ：確認      コ：提出

21. 脳波は【 85 】とともに変化していく。子どもの脳波は【 86 】波中心であるが、成長するにつれ【 87 】波中心となる。大人の脳波となるのは【 88 】である。60歳を過ぎると脳波にも変化が現れる。高齢になると【 86 】波が増える。

【 選択肢 】

ア：加齢      イ：徐      ウ：頻      エ： $\alpha$       オ：低周  
 カ：16～17歳      キ：12歳～15歳      ク：20歳を過ぎてから

22. 複雑な看護現象をより正確にとらえ表現するためには看護チームの共通認識を導く言葉が必要になる。この共通認識を導くことばを【 89 】という。【 89 】とは意味と【 90 】を含んだ言葉である。

【 選択肢 】

ア：看護診断      イ：命題      ウ：概念      エ：カテゴリー      オ：範囲

23. 質問紙調査では、測定したい概念を明確にし、それぞれの概念を把握するためにもっとも適した質問紙を【 91 】する。他の研究対象者との比較を行うためには、【 92 】されて【 93 】用いられている質問紙を用いるとよい。

【 選択肢 】

ア：選択      イ：作成      ウ：標準化      エ：開発  
オ：広く      カ：狭い範囲で

24. オレムのセルフケア理論において、セルフケアを遂行するための能力は、特定のことに注意をむける能力、知識を得る能力、【 94 】する能力、変化を起こす能力など複合的なものである。

【 選択肢 】

ア：統合      イ：選別      ウ：分析      エ：決断      オ：理解

25. 【 95 】によれば、人間は生涯を通じて成長し続ける存在であるが、困難な現実につづかって生きていく上での難問を解消する手立てが見出せない場合に、【 96 】が生じたり、それが長引いて【 97 】の低下を来たすことがある。

【 選択肢 】

ア：ピネル      イ：エリクソン      ウ：ロジャース      エ：衝動性      オ：合理化  
カ：退行      キ：人間性      ク：人格水準      ケ：精神機能

26. アセスメントに用いるデータには、【 98 】データと【 99 】データがある。【 98 】データは、現在の状況や症状、苦痛について患者自身がどのように感じ、また理解しているかを患者自身の言葉としてとらえるものである。【 99 】データは、患者について他者が直接観察したものである。

【 選択肢 】

ア：科学的      イ：客観的      ウ：統計的      エ：主観的      オ：感情的

27. ICF（国際生活機能分類）では、環境因子として物的環境以外に人的な環境因子、社会意識としての環境因子、【 100 】な環境因子などをあげている。

【 選択肢 】

ア：文化的      イ：個人的      ウ：歴史的      エ：制度的      オ：地域的